



本資料は、米国アッヴィ社が2026年4月29日(米国時間)に発表したプレスリリースを一部、日本語に翻訳し、2026年5月13日(日本時間)、皆さまのご参考として供するものです。本資料の正式言語は英語であり、その内容および解釈については英語が優先します。日本で発売されている製品は日本の製品名を記載しています。本資料(英文)については、www.abbvie.comをご覧ください。なお本文中には日本未承認薬、未承認適応症に関する情報が含まれています。

PRESS RELEASE

2026年5月13日

アッヴィ、2026年第1四半期の業績を発表

- 第1四半期の希薄化後1株当たり利益(EPS)はGAAPベースで、45.8%減の0.39ドルでした。調整後希薄化後EPSは7.7%増の2.65ドルでした。これらには、取得した仕掛研究開発費およびマイルストーン支払に関連した1株当たり0.41ドルのマイナスの影響が含まれます。
- 第1四半期の売上高は、報告ベースで12.4%増、営業ベースで10.3%増の150億200万ドルでした。
- イムノロジー(免疫)領域の第1四半期の売上高は、報告ベースで16.4%増、営業ベースで14.3%増の72億9,000万ドルでした。スキリージ®の売上高は、44億8,300万ドルでした。リンヴォック®の売上高は、21億1,900万ドルでした。ヒュミラ®の売上高は、6億8,800万ドルでした。
- ニューロサイエンス(精神・神経疾患)領域の第1四半期の売上高は、報告ベースで26.0%増、営業ベースで24.3%増の28億7,500万ドルでした。Vraylar(日本では未承認・未発売)の売上高は、9億500万ドルでした。ボトックス・セラピューティック(日本ではグラクソ・スミスクライン株式会社による承認承継・販売)の売上高は、10億900万ドルでした。Ubrelyv およびアクイプタ®の売上高は合わせて、6億3,500万ドルでした。ヴィアレブ®の売上高は、2億100万ドルでした。
- オンコロジー(がん)領域の第1四半期の売上高は、報告ベースで0.2%減、営業ベースで3.0%減の16億3,100万ドルでした。ベネクレクスタ®の売上高は、7億7,000万ドルでした。イムブルビカ®(日本ではヤンセンファーマ株式会社による承認・販売)の売上高は、5億5,600万ドルでした。Elahere(日本では未承認・未発売)の売上高は、1億9,800万ドルでした。
- エステティックス(美容医療)領域の第1四半期の売上高は、報告ベースで7.6%増、営業ベースで5.1%増の11億8,600万ドルでした。ボトックス・コスメティックの売上高は、6億6,800万ドルでした。ジュビダームの売上高は、2億3,200万ドルでした。
- 2026年における調整後希薄化後EPSのレンジを、13.96ドル~14.16ドルから14.08ドル~14.28ドルへ引き上げました。これには、2026年第1四半期に取得した仕掛研究開発費およびマイルストーン支払による1株当たり0.41ドルのマイナスの影響が含まれます。

米国イリノイ州ノースシカゴ、2026年4月29日—アッヴィ(NYSE:ABBV)は、2026年第1四半期(2026年3月31日終了)の業績を発表しました。

アッヴィの会長兼CEOのロバート・A・マイケルは、次のように述べています。「第1四半期の業績は当社の予想を上回り、2026年は幸先の良いスタートを切っています。アッヴィの主要な成長ドライバーは引き続き力強さを示し、通期見通しの引き上げを後押ししています。また、有望なデータが



出るとともに、開発のあらゆる段階にある多数のプログラムが着実に進んでいます。パイプラインの進展と堅調な事業基盤により、長期的に力強い成長が見込まれます」

2026 年第 1 四半期の業績

- 売上高は、報告ベースで 12.4%増、営業ベースで 10.3%増の 150 億 200 万ドルでした。
- イミュノロジー(免疫)領域の売上高は、報告ベースで 16.4%増、営業ベースで 14.3%増の 72 億 9,000 万ドルでした。
 - スキリージ®の売上高は、報告ベースで 30.9%増、営業ベースで 29.2%増の 44 億 8,300 万ドルでした。
 - リンヴォック®の売上高は、報告ベースで 23.3%増、営業ベースで 20.2%増の 21 億 1,900 万ドルでした。
 - ヒュミラ®の売上高は、報告ベースで 38.6%減、営業ベースで 40.3%減の 6 億 8,800 万ドルでした。
- ニューロサイエンス(精神・神経疾患)領域の売上高は、報告ベースで 26.0%増、営業ベースで 24.3%増の 28 億 7,500 万ドルでした。
 - Vraylar(日本で未承認・未発売)の売上高は、18.4%増の 9 億 500 万ドルでした。
 - ボトックス・セラピューティック(日本ではグラクソ・スミスクライン株式会社による承認承継・販売)の売上高は、報告ベースで 16.5%増、営業ベースで 14.9%増の 10 億 900 万ドルでした。
 - Ubrelvy(日本で未承認・未発売)の売上高は、報告ベースで 41.4%増、営業ベースで 41.2%増の 3 億 3,900 万ドルでした。
 - アクイブタ®の売上高は、報告ベースで 53.6%増、営業ベースで 51.3%増の 2 億 9,600 万ドルでした。
 - ヴィアレブ®の売上高は、2 億 100 万ドルでした。
- オンコロジー(がん)領域の売上高は、報告ベースで 0.2%減、営業ベースで 3.0%減の 16 億 3,100 万ドルでした。
 - ベネクレクスタ®の売上高は、報告ベースで 15.7%増、営業ベースで 9.7%増の 7 億 7,000 万ドルでした。
 - イムブルビカ®(日本ではヤンセンファーマ株式会社による承認・販売)の売上高は 24.7%減の 5 億 5,600 万ドルでした。
 - Elahere(日本では未承認・未発売)の売上高は、報告ベースで 10.7%増、営業ベースで 8.3%増の 1 億 9,800 万ドルでした。
- エステティックス(美容医療)領域の売上高は、報告ベースで 7.6%増、営業ベースで 5.1%増の 11 億 8,600 万ドルでした。
 - ボトックス・コスメティックの売上高は、報告ベースで 20.2%増、営業ベースで 17.0%増の、6 億 6,800 万ドルでした。
 - ジュビダームの売上高は、報告ベースで 0.4%増、営業ベースで 2.9%減の 2 億 3,200 万ドルでした。
- GAAP ベースで、売上総利益率は 71.9%でした。調整後売上総利益率は 83.6%でした。
- GAAP ベースで、売上高に占める販売費および一般管理費の割合は、23.9%でした。調整後の売上高に占める販売費および一般管理費の割合は 22.7%でした。



- GAAP ベースで、売上高に占める研究開発費の割合は、16.5%でした。調整後の研究開発費の売上高に占める割合は、15.1%でした。
- 取得した仕掛研究開発費およびマイルストーン支払の売上高に占める割合は 5.0% でした。
- GAAP ベースで、営業利益率は 26.6% でした。調整後営業利益率は 40.8% でした。
- 純支払利息は 6 億 4,500 万ドルでした。
- GAAP ベースで、税率は 32.9% でした。調整後の税率は、15.4% でした。
- GAAP ベースの希薄化後 EPS は、0.39 ドルでした。特定項目を除く調整後希薄化後 EPS は、2.65 ドルでした。これらには、取得した仕掛研究開発費およびマイルストーン支払に関連した 1 株当たり 0.41 ドルのマイナスの影響が含まれます。

注意：「営業ベース(Operational)」の対比は、恒常為替レートで提示し、前年の為替レートにより現地通貨売上高の比較を実施しています。

詳細な情報はこちらをご覧ください(英文オリジナル)。

<https://news.abbvie.com/2026-04-29-AbbVie-Reports-First-Quarter-2026-Financial-Results>

アッヴィについて

アッヴィのミッションは現在の深刻な健康課題を解決する革新的な医薬品の創製と提供、そして未来に向けて医療上の困難な課題に挑むことです。一人ひとりの人生を豊かなものにするため次の主要領域に取り組んでいます。免疫疾患、精神・神経疾患、がん、さらに美容医療関連のアラガン・エステティックスポーツフォリオの製品・サービスです。アッヴィの詳細については、www.abbvie.com をご覧ください。[LinkedIn](#)、[Facebook](#)、[Instagram](#)、[X](#) や [YouTube](#) でも情報を公開しています。

Forward-Looking Statements

Some statements in this news release are, or may be considered, forward-looking statements for purposes of the Private Securities Litigation Reform Act of 1995. The words "believe," "expect," "anticipate," "project" and similar expressions and uses of future or conditional verbs, generally identify forward-looking statements. AbbVie cautions that these forward-looking statements are subject to risks and uncertainties that may cause actual results to differ materially from those expressed or implied in the forward-looking statements. Such risks and uncertainties include, but are not limited to, challenges to intellectual property, competition from other products, difficulties inherent in the research and development process, adverse litigation or government action, changes to laws and regulations applicable to AbbVie's industry, the impact of global macroeconomic factors, such as economic downturns or uncertainty, international conflict, trade disputes, tariffs and other uncertainties and risks associated with global business operations. Additional information about the economic, competitive, governmental, technological and other factors that may affect AbbVie's operations is set forth in Item 1A, "Risk Factors," of AbbVie's 2025 Annual Report on Form 10-K, which has been filed with the Securities and Exchange Commission, as updated by its Quarterly Reports on Form 10-Q and in other documents that AbbVie subsequently files with the Securities and Exchange Commission that update, supplement or supersede such information. AbbVie undertakes no obligation, and specifically declines, to release publicly any revisions to forward-looking statements as a result of subsequent events or developments, except as required by law.